

神戸市垂水区の自宅で、慢性疾患のある子どもや障害児を預かる民間保育施設「ちっちゃなこども園にじいろ」を運営する。先駆的な事業が評価され、1月、患者の視点に立つ看護師に贈られるナースオブザイヤーの「インディペンデントナース賞」を受賞した。

東京のNPO法人「楽患ねっと」のネット投票で選ばれ、「子育て支援が医療分野で認められ、うれしい」と喜ぶ。

兵庫県立看護大現・兵庫県立大を卒業。県立こども病院の看護師と

インディペンデントナース賞を受賞した

末永美紀子さん



して未熟児や障害児のケアを経験していた。「母親が子育てを楽しめず医療機器が発達し、経管栄養摂食が難しくなると痛感した。取やたん吸引などが自宅で可能になった。医療機器が発達し、経管栄養摂食が難しくなると痛感した。取やたん吸引などが自宅で可能になった。

しかし親の負担は重く、障害への偏見から親戚にも冷たくされて孤立した。会社員の夫は自宅開放に

協力してくれ、2004年に開設。現在は2階が住居、1階が保育施設で、健常児を含め約30人の世話をする。医療機器を備え、重病のケアもできる看護師の発想が生んだ「保育園」だ。

救命医療の高度化で多くの未熟児の命が助かる時代になったが、重病や障害が残ることも少なくない。「そんな子どもたちと母親を支援できる社会を広げたい。その先駆けになれば」と抱負を語る。

神戸市出身。夫と2人の男児と暮らす。37歳。(津谷治英)